

羽ばたけ高く 中部の航空機産業

脚光浴びるB787とMRJ

B787が試験飛行で中部初飛来

部品の増産急ピッチ

MRJは一流国への切り札

中部地区には三菱重工、川崎重工、富士重工業など主要な航空機メーカーが生産拠点を構える。また機体メーカーを支える協力企業群も多数存在し、航空機産業の一大集積地となっている。2011年は米ボーイングの次世代中型機

「787」の中部初飛来を期し知らせが相次いでいる。また中部地区の航空機産業をさらなる高みへと導こうとする自治体などの試みも進行中だ。中部の航空機産業の現状を追った。

重要だ。一方、航空機産業を支える動きも活発だ。中部経済産業局を中心となつて08年に立ち上げた「航空宇宙産業フォーラム」もその一つ。東海3県と名古屋、名古屋大学、中部経済連合会などは、11年から新たに

中日本航空専門学校(同開市)などが協力し、講師派遣を行う。毎年、講座の日程は18日間、計100時間以上に及び、座学に加え加工実習も体験する。魅力的な内容に中部地区以外からも受講生が集まる。

5万人集まる
7月10日、愛知県常滑市の中部空港には延べ5万人の航空ファンらが詰めかけた。10月にも営業飛行を始める米ボーイングの新型機「787」が試験飛行に降り立った。

向け、各社の増産が急ピッチに進む。787に勝るとも劣らず注目されるのが、三菱航空機(名古屋市中区)が開発するMRJ。同機は高い燃費性などが売りで、座席数が70席と90席の2機種を開発中だ。

しかしMRJの行先は世界の小型機市場は現は決して楽観できない。在カタタのポナルデ

重要だ。一方、航空機産業を支える動きも活発だ。中部経済産業局を中心となつて08年に立ち上げた「航空宇宙産業フォーラム」もその一つ。東海3県と名古屋、名古屋大学、中部経済連合会などは、11年から新たに

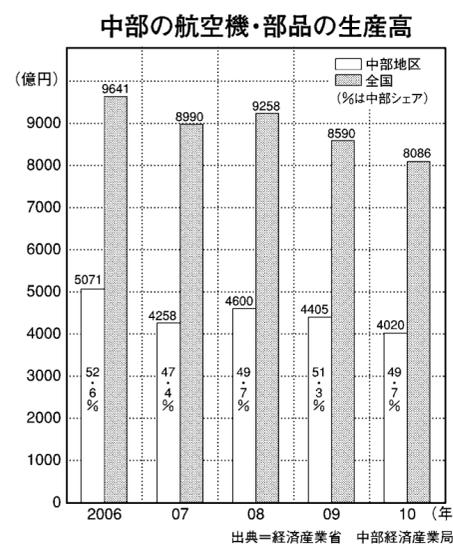
787は機体の35%を占める部分を愛知県や岐阜県など中部地区にある企業が分担して製造する。3年間にも及ぶ開発遅れで先行きを不安視する声があったが、このたびは機体完成し、ローンチカスタマー(開発の後盾となる顧客)である全日本空輸(ANA)への納入が決まった。中部の航空機関連各社は787向け部品の需要拡大を見据え、数年前から工場新設など設備投資を重ねてきた。今後は「月産10機分」(ボーイング首脳)の部品生産に切り札となる。



2012年4-6月に初飛行を予定するMRJのイメージ図(©三菱航空機)

産業支援の動きも活発化 国の特区申請へ協議会設立

空機設計から販売まで一貫して担う体制づくりを目指す。



「787」の中部初飛来を期し知らせが相次いでいる。また中部地区の航空機産業をさらなる高みへと導こうとする自治体などの試みも進行中だ。中部の航空機産業の現状を追った。

重要だ。一方、航空機産業を支える動きも活発だ。中部経済産業局を中心となつて08年に立ち上げた「航空宇宙産業フォーラム」もその一つ。東海3県と名古屋、名古屋大学、中部経済連合会などは、11年から新たに

空機設計から販売まで一貫して担う体制づくりを目指す。同特区は年内にも国が数カ所を指定する予定。航空機産業を世界で戦えるレベルに押し上げようと、自治体も力強く後押しする。

日本の航空機産業のさらなる発展には、中部地区の果たす役割が大きい。中部では機体メーカーや部品メーカーに加え、国や自治体、大学などが一体となり、産学官の総力を挙げた取り組みが続く。

Water Jet Cutting

CFRP Drilling & Tapping

Deburr - Washing Bubble

Machining & Lathing

Waterbeam Cutting

SUGINO

スギノマシン

MCT2011 出展
会場: ポートメッセなごや 3号館 3A01
出展製品情報 <http://www.sugino.com>